

194

A	B

慣用句(2)

●覚えておきたい慣用句②
動物や植物を使った慣用句もよく使われます。

動物

- ・借りてきた猫：いつもどちがい、おとなしい様子。
- ・猿真似：よく考えないで、人のまねばかりすること。
- ・雀の涙：ごくわずかなこと。
- ・虫がいい：自分勝手にずうずうしい。

植物

- ・根も葉もない：何の根拠もない、全くでたらめなこと。
- ・青菜に塩：すっかり元気がない様子。
- ・花を持たせる：勝ちや手柄をゆずって、相手を立てる。
- ・芋を洗うよう：人出て混雑している様子。

そのほかにも、人の気持ちや様子をたとえる言葉を使った慣用句や、身近な品物を使った慣用句があります。

- ・涙をのむ：くやしい気持ちをがまんする。
- ・青筋を立てる：腹を立てて、かんかんに怒る。
- ・息をのむ：驚きや緊張で、一瞬、呼吸を止める。
- ・気が置けない：親しい。気をつかう必要がある。
- ・お茶にごす：その場をうまくこまかす。
- ・油を売る：用事の途中でむだな話などをして時間をつぶす。
- ・水くさい：親しい関係なのに、よそよそしい。
- ・さじを投げる：見込みがないとあきらめる。
- ・焼け石に水：少しばかりの力や助けては効果がまるでない。

問三 次の□にあてはまる動物名をひらがなで答え、()内の意味を表す慣用句を完成させなさい。

- が合う(気が合う。しつくりいく。)
- の遠吠え(腹病な人が陰でからいばりすること。)
- にたまれる(事情が理解できずにぼんやりすること。)
- 袋の□(逃げ出すことができない状態。)
- の子を散らす(大勢の人間が散り散りに逃げる様子。)
- の額(とても狭いこと。)

問四 次の文中の□にあてはまる言葉を、後の□の中から選び、漢字に直して答えなさい。

- 父は□が立つ人だ。
- 木に□を接いだような君の理屈には賛成できない。
- 母は、身を□にして働いた。
- 牛の乳しぼりがだんだん□についてきた。
- あの人の作品は□の打ち所がない。
- わたりに□と、通りがかりのタクシーに飛び乗った。

- | | |
|-----|-----|
| (4) | (1) |
| □ | □ |
| (5) | (2) |
| □ | □ |
| (6) | (3) |
| □ | □ |

氏名

問一 ()内の意味の慣用句になるように、□にあてはまる言葉を後から選び、記号で答えなさい。

- をしめる(一度うまくいったので、次も期待する。)
- を食う(びつくりしてあわてる。)
- も涙もない(思いやりが全くない。)
- 水と□(相いれないこと。)
- に持つ(うらみをいつまでも持ち続ける。)
- 血と□の結晶(非常に苦勞して手に入れたもの。)
- をけずる(激しく戦う。)
- を射る(物事の重要なところをとらえる。)
- をくぐる(たいしたことはないど、軽く見る。)
- に乗る(いい気になる。つけあがる。)

- ア 高い
イ 的
ウ 図
エ 味
オ 根
カ 汗
キ 血
ク 油
ケ しのぎ
コ 泡

- | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|------|
| (1) | (2) | (3) | (4) | (5) |
| □ | □ | □ | □ | □ |
| (6) | (7) | (8) | (9) | (10) |
| □ | □ | □ | □ | □ |

問二 次の各組の慣用句の□には共通の言葉が入ります。それぞれ漢字一字で答えなさい。

- | | | | |
|-------|--------|-------|-----|
| (1) | (2) | (3) | (4) |
| □の泡 | □をあける | □を向ける | |
| □の車 | □花を散らす | □を吐く | |
| □にさわる | □がとがめる | □をもむ | |
| □を殺す | □を凝らす | □をぬく | |

問五 次の□に入る鳥の名前をA群から選び、完成させた慣用句の意味をB群から選び、記号で答えなさい。

- の涙
- 首をそろえる
- が鳴く
- に豆鉄砲
- の行水
- の一声

- 【A群】
ア 鳥
イ 鶴
ウ 雀
エ 鳩
オ 雁
カ 関古鳥

- 【B群】
あ 他の人の意見を圧倒する、有力な人の一言。
い 突然のことに驚いて、きょとんとしている様子。
う ほんのわずかなものたどえ。
え 人の訪れがなく、ひっそり静まりかえっている様子。
お 入浴時間が短いこと。
か 頭数、人数をそろえること。

- | | | |
|-----|-----|-----|
| (5) | (3) | (1) |
| A | A | A |
| □ | □ | □ |
| B | B | B |
| □ | □ | □ |
| (6) | (4) | (2) |
| A | A | A |
| □ | □ | □ |
| B | B | B |
| □ | □ | □ |

コトバのアルゴリズム

□の中に文字を入れて、右側の文と同じ内容の文を作りなさい。

① 奈良時代から平安時代にかけて、唐の優れた文化を学ぼうとして、中国への多くの使いや留学生が船出しましたが、当時の船は木造船のうえ、航海の技術も進んでいませんでしたので、嵐あらしにあつてその本望を上げぬままに海で亡なくなつてしまつた人も多かつたのです。

奈良時代から平安時代にかけて、

ために、多くの

出発しました。しかし、嵐にあい

も多くいました。当時は木造船で、航海の技術も発達していなかつたことが原因です。

② 自分を他人とちがつた人間だと思うことは自立心が育つた証拠ではあるが、これが度を越すと、気負いはかりが前に出て、人とのつき合いがうまくいかなくなるものだ。

自分を他人とはちがう

、自立心が育つた

証拠だ。□、これが度を越すと人とのつき合いがうまくいかなることが多い。

しまうからだ。

③ 段落相互の関係や、話題の展開をつかむには、段落の冒頭にある言葉、特に接続語が手掛かりとなる。

□を手掛かりに、

をつかむことができる。

④ みんなはばたばたかばんをあげたりふろしきをといたりして、通信簿と宿題を机の上に出しました。そして先生が一年生のほうから順にそれを集めはじめました。そのときみんなはぎょっとしました。というわけはみんなのうしろのところについてか一人の大人が立っていたのです。

(宮沢賢治『風の又三郎』)

先生が

を集めはじめたとき、教室のうしろにいつのまにか

が立っていたことに気づき、みんなは

した。

言語事項

1 類義語・対義語

できた数

問

□問一 次の(1)～(8)の熟語の類義語をそれぞれ後の語群から選び、漢字に直して答えなさい。

(1) 誠意	(2) 使命	(3) 理由	(4) 美点	(5) 音信	(6) 出世	(7) 返事	(8) 手段	(9) 作業	(10) 出版	(11) 進歩	(12) 準備	(13) 完全	(14) 厚意	(15) 興味	(16) 不安	(17) 明白	(18) 手紙
おうとう こうじょう しんせつ ほうほう りっしん	かんこう しんご しんぱい まごころ れきせん																
	かんしん しょうそく ちようしよ むけつ ようい																
	けんいん しよめん にんむ ようい																

学習日 月 日

□問二

次の(1)～(20)の熟語の一字だけをそれぞれ他の漢字にかえて、類義語を答えなさい。ただし、上下の順番は変えないこと。

(1) 公開	(2) 真実	(3) 自然	(4) 経験	(5) 案外	(6) 志望	(7) 首肯	(8) 活用	(9) 決心	(10) 天気	(11) 重大	(12) 結末	(13) 方向	(14) 平易	(15) 去年	(16) 修正	(17) 順調	(18) 永續	(19) 帰郷	(20) 苦心

言語事項

2 類義語・対義語

できた数

問

□問一 次の(1)～(8)の熟語の対義語をそれぞれ後の語群から選び、漢字に直して答えなさい。

(1) 過失	(2) 起立	(3) 賛成	(4) 形式	(5) 消費	(6) 平和	(7) 分解	(8) 失敗	(9) 団体	(10) 病気	(11) 自然	(12) 減少	(13) 差別	(14) 解散	(15) 全体	(16) 過去	(17) 現実	(18) 原因
しゅうごう ぞうか せいこう はんたい みらい	こい せんご せんそう びようどう りそう																
	けんこう じんこう ないよう ごうせい																

学習日 月 日

□問二

次の(1)～(20)の熟語の一字だけをそれぞれ他の漢字にかえて、対義語を答えなさい。ただし、上下の順番は変えないこと。

(1) 無害	(2) 私服	(3) 本業	(4) 登山	(5) 返信	(6) 当選	(7) 消極	(8) 間接	(9) 東洋	(10) 起点	(11) 主観	(12) 不備	(13) 長所	(14) 絶対	(15) 私用	(16) 退院	(17) 不運	(18) 雜然	(19) 多量	(20) 末期